

# ふくらく通信

2017年 第2号 6月21日発行

総合数 81号  
発行人 菅野香織

2014年3月の農業園芸センター  
解体前の大温室が見える ↓



再び命の輝きに  
満ちた場所へ

仙台市農業園芸センター

津波に襲われた荒井。農業園芸センターも一度は荒れ果てた。以前は大きな温室が目印だったが、今は解体されてもう無い。残念だ。

2017.5/5. 甘い香りにふと見ると、見事な藤の鉢植え。実は、津波痕から拾ったのを植え替えたものだという ↓

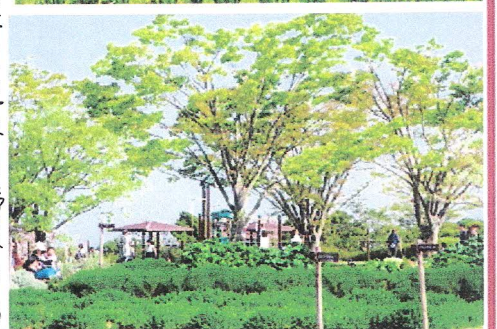
傍にいた菅野農園の方が声をかけてくれた。  
「これね。俺が植えたの。流されたやつ。津波の七から拾ってきたんだ。植え替えたやつ咲いたんだよと。」



互いに、生かした植物。かされる人と植物。何と素晴らしい。今、咲き誇る花々。葉を茂らせる木々。日に日に大きくなる苗を見て、私らは思う。向かい、再び命の輝きに満ちた場所へ。

2017年5月センター内

だが荒れた庭園は、再び花を草木を野菜と、人々が丹精して育て、心地よい庭園へと甦った。



地下鉄東西線 荒井駅内

## せんだい3.11メモリアル交流館

2階展示室では、壁一面に震災時の写真が掲げられていた。



企画展示「それから、声がきこえる」は、1/2まで (入場無料)

\*ご意見、ご感想は下記のあて先へ ↓

2階奥に、声の聞こえる小部屋があった。

この展示は、震災による出来事と意思を感じるもの。

棚の本を手に取ったり、腰かけの壁や柱に耳を近づけたり、キャンドルに息を吹きかけ耳にあてたりすると、語る声が聞こえる。

「そうそう、あの時はこんなだった」と共感したり、「こういう思いをした人いるのだから」と心を痛めたりしながら、同じひと時を共有している感覚に。

